



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年2月12日

上場会社名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 上場取引所 東
 コード番号 3652 URL https://www.dmprof.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 山本 達夫
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 大澤 剛 TEL 03 (6454) 0450
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	661	34.1	△159	—	△166	—	△167	—
2019年3月期第3四半期	493	△21.3	△53	—	△49	—	△49	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△54.62	—
2019年3月期第3四半期	△17.77	—

(注) 2019年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。2020年3月期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	3,547	3,312	93.4	1,057.99
2019年3月期	2,383	1,998	83.8	710.70

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 3,312百万円 2019年3月期 1,998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,300	19.6	30	3.6	30	△9.9	20	△43.1	6.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3 Q	3,131,700株	2019年3月期	2,811,700株
② 期末自己株式数	2020年3月期3 Q	1,069株	2019年3月期	369株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3 Q	3,065,590株	2019年3月期3 Q	2,800,182株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、生産や輸出が弱含みなものの、堅調な企業収益や雇用情勢を背景に緩やかな回復基調を辿りましたが、足下では消費増税や自然災害の多発もあり、景気減速や企業業績の下振れ懸念がくすぶっています。一方、世界経済は、通商問題の動向や中国経済の先行きに加え、英国のEU離脱や中東を巡る情勢の影響により景気の減速が懸念される不透明な状況で推移しました。また、直近では、新型肺炎の広がりにより、世界経済が後退するリスクが高まっています。

当社の属する半導体業界では、先端技術をめぐる米中の摩擦が長期化し、特定の分野に影響が出ているものの、あらゆるモノがインターネットにつながるIoTや人工知能(AI)、ビッグデータ、次世代高速通信規格、自動運転関連のビジネスは拡大の一途を辿っており、この分野における旺盛な需要により活況を呈しております。

当社の事業領域であるAI/ビジュアル・コンピューティング分野においては、AI関連の市場規模拡大を背景に、異業種からの参入や既存プレイヤーの事業強化の動きが顕著な競争環境にあるため、技術優位性に加え、市場ニーズを的確に捉えた製品・サービスの開発と速やかな市場投入が要求される事業環境にあります。このような環境下において、当社は、世界をリードする「AI Computing Company」となるべく、AIアルゴリズム、ソフトウェア、ハードウェアの一貫した開発体制を持つ強みを活かしたAIソリューションの提供により、人口減少や少子高齢化、それに伴う医療費増大といった社会課題解決や安心・安全社会の実現を目指しております。

当第3四半期において、当社は引き続きAI分野に注力して事業を展開しており、特にモビリティ領域においては、画像認識エンジン「ZIA™ Classifier」が株式会社デンソーテンのドライブレコーダーにおけるヒヤリハット画像解析に採用されたほか、「ZIA™ Classifier」をさらに進化させ、安全運転支援システムの実現に必要な機能・モジュールの集合体として体系化したAIプラットフォーム「ZIA™ SAFE」の提供を開始し、あおり運転や高齢者の危険運転といった社会課題への対応を加速しています。また、自動運転のリーディング企業とのパートナーシップの強化および最先端自動運転技術の取得と仕様策定への参画を通じた自動運転技術におけるソリューション提供力の向上等を目的として、自動運転OSの業界標準を目指す国際業界団体である「The Autoware Foundation」に加盟しました。モビリティ以外の領域においては、製品外観検査の省人化および自動化を支援するAI・ディープラーニングのソリューションを共同で構築することについて、株式会社コンピュータマインドと技術提携を進めています。また、エッジAI技術に係る人材育成・強化やアイデアの発掘に貢献するべく、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の調査委託事業「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティング技術開発に係るアイデア発掘のための課題調査」の採択を果たし、AIエッジコンテストの運営を開始しました。さらに、AI分野以外においては、当社の画像処理半導体「RS1」を搭載したアミューズメント機器が稼働を開始しており、今後のリリースタイトルの増加に伴う「RS1」の出荷数量増が見込まれます。

当第3四半期の業績につきましては、LSI製品事業において画像処理半導体「RS1」の量産出荷が順調に推移しました。一方、IPコアライセンス事業においてはゲーム機向けを中心にランニングロイヤリティが減少しました。また、プロフェッショナルサービス事業においては、「省電力AIエンジン受託開発」関連のNEDO受託収入(前年同期125百万円)の剥落はあったものの、業務資本提携先であるヤマハ発動機株式会社をはじめとしたモビリティ関連の受託開発プロジェクトが増加しました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は661百万円(前年同期比34.1%増)となり、前年同期比増収となりました。一方利益面では、開発体制の強化のための人員増に伴う経費の増加および売上構成の変化に伴う利益率の減少等により、営業損失159百万円(前年同期営業損失53百万円)となりました。また、NEDOからの助成事業に伴う助成金収入として営業外収益に47百万円を計上したものの、ヤマハ発動機株式会社との業務資本提携および第三者割当増資の実施に係る諸費用を新株発行費として営業外費用に56百万円計上したこと等により、経常損失166百万円(前年同期経常損失49百万円)、四半期純損失167百万円(前年同期四半期純損失49百万円)となりました。このように当第3四半期累計期間は、前年同期比増収減益という結果となりましたが、RS1の売上増に伴う経営基盤安定化とAI事業ライン充実により利益創出態勢を整えることができました。

当社は、単一セグメントであります。事業の傾向を示すため、事業別の業績を以下に示します。

① IPコアライセンス事業

新規AI IPライセンス、既存顧客からのランニングロイヤリティ収入および保守サポートによる収入の計上により、売上高は114百万円となりました。

② LSI製品事業

「RS1」およびAI FPGAモジュール「ZIA C3」の売上の計上により、売上高は333百万円となりました。

③ プロフェッショナルサービス事業

モビリティ関連を中心とした受託開発売上の計上により、売上高は214百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は2,667百万円となり、前事業年度末に比べ604百万円増加いたしました。主な変動要因は、現金及び預金が902百万円増加および売掛金が335百万円減少したことによるものであります。また、固定資産は879百万円となり、前事業年度末に比べ559百万円増加いたしました。主な変動要因は、投資有価証券が600百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債および固定負債は合計で235百万円となり、前事業年度末に比べ149百万円減少いたしました。主な変動要因は、買掛金が136百万円減少したこと、およびその他流動負債が20百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は3,312百万円となり、前事業年度末に比べ1,314百万円増加いたしました。これは2019年5月27日付けで、ヤマハ発動機株式会社から第三者割当増資の払込みを受けた結果、当第3四半期累計期間において資本金および資本剰余金がそれぞれ742百万円増加し、四半期純損失により利益剰余金が167百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日に公表いたしました2020年3月期の通期業績予想に変更はありません。第4四半期は、「RS1」の順調な出荷とともに、IPコアライセンス事業において、大型案件を複数見込んでおります。また、AI関連のプロフェッショナルサービス事業においても、NEDO「AIエッジコンテスト」運営受託収入に加え、ヤマハ発動機、ドライブレコーダー関連顧客、ナンバープレート関連顧客、産機系顧客等の開発受託サービスの売上の増加を見込んでおります。なお、実際の業績につきましては、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,096,810	1,998,979
売掛金	566,997	231,938
有価証券	345,372	345,216
たな卸資産	7,472	30,694
その他	46,387	61,144
流動資産合計	2,063,041	2,667,973
固定資産		
有形固定資産	27,750	37,551
無形固定資産		
ソフトウェア	204,937	165,956
その他	25	25
無形固定資産合計	204,963	165,982
投資その他の資産		
投資有価証券	—	600,460
その他	87,604	75,911
投資その他の資産合計	87,604	676,371
固定資産合計	320,318	879,905
資産合計	2,383,359	3,547,878
負債の部		
流動負債		
買掛金	293,237	156,498
未払法人税等	2,252	9,843
その他	71,271	50,774
流動負債合計	366,761	217,116
固定負債		
繰延税金負債	1,932	1,739
資産除去債務	16,656	16,842
固定負債合計	18,588	18,582
負債合計	385,350	235,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,062,032	1,804,592
資本剰余金	1,081,243	1,823,803
利益剰余金	△141,191	△308,643
自己株式	△1,482	△1,482
株主資本合計	2,000,603	3,318,270
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,594	△6,091
評価・換算差額等合計	△2,594	△6,091
純資産合計	1,998,008	3,312,179
負債純資産合計	2,383,359	3,547,878

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	493,314	661,522
売上原価	239,145	366,915
売上総利益	254,168	294,607
販売費及び一般管理費	307,563	453,610
営業損失(△)	△53,394	△159,003
営業外収益		
受取利息	834	2,083
為替差益	4,868	—
助成金収入	—	47,200
雑収入	—	36
営業外収益合計	5,702	49,320
営業外費用		
株式交付費	1,592	—
新株発行費	—	56,162
為替差損	—	907
自己株式取得費用	2	—
営業外費用合計	1,595	57,069
経常損失(△)	△49,287	△166,752
特別利益		
新株予約権戻入益	19	—
特別利益合計	19	—
特別損失		
固定資産除却損	—	180
特別損失合計	—	180
税引前四半期純損失(△)	△49,268	△166,932
法人税、住民税及び事業税	712	712
法人税等調整額	△222	△192
法人税等合計	490	519
四半期純損失(△)	△49,758	△167,452

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年5月27日付けで、ヤマハ発動機株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が742,560千円、資本剰余金は742,560千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,804,592千円、資本剰余金が1,823,803千円となっております。